

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 30 年 6 月 8 日現在

機関番号：14301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2015～2017

課題番号：15K15166

研究課題名(和文) 診療参加型臨床実習における学習/評価ポートフォリオ活用に関する総合的実践研究

研究課題名(英文) Action Research for developing learning and assessment portfolio in clinical clerkship

研究代表者

錦織 宏 (Nishigori, Hiroshi)

京都大学・医学研究科・准教授

研究者番号：10463837

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においては、近年広まりつつある診療参加型臨床実習の学習支援システムとしてのポートフォリオの構築を行った。メンター制度は構築し、学生2～4人に1人のメンター(全員医師)が、診療科横断的に学生のサポートに関わるようになった。電子ポートフォリオシステムの構築は、Learning Management Systemの機能も含めた形で開発を進め、モニター診療科で一部利用する段階にまで至った。今後、さらに開発を進め、学外病院でも利用可能な電子ポートフォリオの構築を目指していく。

研究成果の概要(英文)：In this research, we have constructed a portfolio as a learning support system for practical clinical practice participating in clinical practice which is spreading in recent years. A mentor system was established, and one mentor (all doctors) in 2 to 4 students became involved in support of students across the department of clinical medicine. Construction of the electronic portfolio system has been advanced in a form including the functions of the Learning Management System and has reached the stage of partial use in the monitor departments. In the future, we will further develop and aim to build an electronic portfolio that can be used at off-campus teaching hospitals.

研究分野：医学教育学

キーワード：ポートフォリオ

### 1. 研究開始当初の背景

申請者はこれまで、診療参加型臨床実習における「臨床現場での評価(work-based assessment)」の重要性を指摘してきた(錦織宏「ポートフォリオとアウトカム/コンピテンシー基盤型教育」『医学教育』2012, 43(4))。欧米を中心として、ポートフォリオにおける「学習ポートフォリオ」と「評価ポートフォリオ」という二つの役割が提起され、MiniCExなどの評価ツールの開発も進められてきた。しかし、これらのポートフォリオが具体的にどのように活用しえるのか、二つの役割間のバランスや運営における必要な支援システムなど日本卒前医学教育への本格導入にあたっては基盤となる研究に乏しく、試行的実践を通してのデータ収集と考察が不可欠である。

### 2. 研究の目的

本研究は、より高度で複雑な能力育成が重視される診療参加型臨床実習でのポートフォリオの活用について、臨床実習生の学習プロセスの解明、ファシリテーター(指導医)に求められる役割の明確化、効果的な支援体制システムの構築を目指して行われるものである。臨床実習におけるポートフォリオの活用については、電子ポートフォリオに代表されるITテクノロジーの開発が進められつつあるが、その一方では、具体的な学習方法論、支援論、評価論などポートフォリオの効果的活用に必要な基礎的研究や議論は十分に構築されていない。この現状を受けて、本研究では、診療参加型臨床実習への移行とともにポートフォリオの本格的導入を検討している京都大学医学部臨床実習をフィールドとして、具体的な実践方策の提起に向けて、学生/指導医/システムの三つの視点から、総合的に研究を行う。

### 3. 研究の方法

平成 27 年度

I 理論的枠組みの構築、研究方法論の精緻化  
「医学教育ポートフォリオ研究会」(仮)の立ち上げ

医学教育実践者・教育学研究者らとの研究協議、助言

研究枠組み、研究方法論の検討

聞きとり・質問紙調査項目、プログラム評価項目の検討

試行的ポートフォリオにおいて用いるツールの開発

ポートフォリオに関連する国内外の実践例などの資料収集

関連する研究会、学会等への参加

II 調査準備

試行的ポートフォリオに協力するモニター学生・指導医の募集

倫理審査委員会への調査申請書の提出

III 研究成果の公表

Literature Review を中心とした関連学会における口頭発表、学術雑誌への研究ノート等の投稿

平成 28・29 年度

I 調査の実施

モニター学生(20名程度/年)と指導医(20名程度)を対象とした試行的ポートフォリオの実施

定期的な聞きとり(個別インタビュー、フォーカス・グループ・インタビュー)と質問紙による調査

ファシリテーター(指導医)を対象としたワークショップの開催(4回)

臨床実習生を対象としたポートフォリオ活用のためのワークショップの開催(4回)

ファシリテーション場面の参与観察及び動画記録(5回)

運営者間による定期的な振り返り、評価と課題の抽出

研究枠組み、研究方法論の見直し

医学教育実践者・教育学研究者らとの研究協議、助言

## II 分析と考察

データの整理（書き起こし、匿名化、テーマ別分類等）

質的データ分析（グラウンデッド・セオリー、SPSS等）ポートフォリオを用いた学生の学習プロセス分析 ファシリテーション・プロセスとファシリテーターの役割分析

ワークショップのプログラム評価と分析（アクション・リサーチ）

## III 研究成果の公表

国内外の関連学会における口頭発表、学術雑誌への論文投稿

『臨床実習生のためのスタディ・ガイド』（仮）、『臨床実習ファシリテーターのためのガイド』（仮）の作成

## 4. 研究成果

平成 27 年度

### I 理論的枠組みの構築、研究方法論の精緻化

医学教育ポートフォリオに関する自由討論の機会を持った。また医学教育電子ポートフォリオの構築に関する全国的な組織にも参画した。

医学教育実践者・教育学研究者らとの研究協議、助言については、上記、全国組織にとどまらず、日本医学教育学会大会においてもモーニングセッションでの意見交換などを行なった。

研究枠組み、研究方法論の検討については、電子ポートフォリオの構築を基盤とし、デザイン開発研究の方法を参考にすることとした。

聞きとり・質問紙調査項目、プログラム評価項目の検討については、全国調査の結果を参考にした。

試行的ポートフォリオにおいて用いるツールの開発については、企業と連携し、開発を進めた。出席確認及びレポート提出、さらに臨床実習における教材の共有を主な利用目的とするツールを開発した。

ポートフォリオに関連する国内外の実践例などの資料収集については、上記、全国組織と連携した。

関連する研究会、学会等への参加  
日本医学教育学会及び欧州医学教育学会で情報収拾を進めた。

## II 調査準備

試行的ポートフォリオに協力するモニター学生・指導医の募集

京都大学医学部の5診療科が協力を申し出たため、モニター診療科とした。学生にはモニターは設定しなかった。

倫理審査委員会への調査申請書の提出  
倫理委員会の承認は得た。

## III 研究成果の公表

電子ポートフォリオに関する研究発表を、医療情報系の学会で行なった。

平成 28・29 年度

### I 調査の実施

モニター学生(20名程度/年)と指導医(20名程度)を対象とした試行的ポートフォリオを実施したが、現場で利用できるレベルには至らなかった。

定期的な聞きとり（個別インタビュー、フォーカス・グループ・インタビュー）と質問紙による調査については、臨床実習担当教員の中からメンターを設定する制度を構築した。電子ポートフォリオも含めた学生のサポートのあり方については、このメンターとのやりとりを通して行った。

ファシリテーター（指導医）を対象としたワークショップの開催については、年に1度、開催した。

臨床実習生を対象としたポートフォリオ活用のためのワークショップの開催(4回)臨床実習生も含めたポートフォリオ活用のためのセッションは、本学が実施している指導医のための医学教育学プログラムの中で実施したが、広範囲の教員を対象には実施できていない。

ファシリテーション場面の参与観察及び動画記録は実施できていない。

運営者間による定期的な振り返り、評価と課題の抽出については、電子ポートフォリオの構築について、定期的に検討を行なった。

研究枠組み、研究方法論の見直しについては、研究者間で定期的に行なって来た。

医学教育実践者・教育学研究者らとの研究協議、助言についても、定期的に行ってきた。

## II 分析と考察

これらについては、フィールドノーツの形で取ったデータをまとめた。

## III 研究成果の公表

他施設で転用可能な形での電子ポートフォリオシステムの開発にまで至っておらず、論文の形などでは公表できていないが、学会大会などで定期的に公表してきている。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 件)

〔学会発表〕(計 2 件)

藤崎 和彦、渡邊 洋子、錦織 宏、春田 淳志。医学教育専門家制度に申請を考えている方のためのポートフォリオ作成ワークショップ、第47回日本医学教育学会大会、2015年7月23日、新潟コンベンションセンター

錦織 宏、アンプロフェッショナルな学生の評価の運用(第2報)、第48回日本医学教育学会大会、2016年7月29日、大阪医科大学

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

## 出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

## 取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

錦織 宏 (NISHIGORI, Hiroshi)  
京都大学 医学研究科 准教授  
研究者番号： 10463837

### (2)研究分担者

柴原 真知子 (SHIBAHARA, Machiko)  
京都大学 医学研究科 助教  
研究者番号： 40625068

### (3)連携研究者

### (4)研究協力者

( )